

末永茂世 はつね 歌人。天保八年五月一日筑前國那珂郡春吉村生れ、大正四年一月二十九日歿（一八三七—一九一五）。講景賢、通稱茂一郎。號墨松、志摩豊園主人、橋長水清庵、笛廬舎、而樂、鬼門。福岡藩士末永常藏（景正）の長男。藩權大屬兼和歌引と掛を務め、縣政以後は大大區區長、管崎宮司等を歴任した。初め長野芳齋の漢學、兵學を、伊藤直江の國學を學び、その後和歌の志として山路重固、吉田櫓の師事、船良鏡門の長歌を學ぶ。明治元年京の上つて八田知紀の門に入り、渡忠秋、大田垣蓮月、東上後は鈴木重嶺、伊東祐命、加藤千浪等と親交。また國風社、玉清會、墨江會等を興した。一方書畫を能くし、篆刻を嗜み、字工藝の巧みぶあつた。

歌集「倭主禮草・倭威集」(明治四十一年五月十日福岡・湯淺俊太郎編輯)があり、「倭威集」は白露戰役間の戰歌集)、集中の「宮崎寅藏(浴天)子か難波節を語るごとく牛右衛門と稱せしかは」と題した、

△繁かれぬことひの牛はおりの角振起すへき時やまつらんこの一首を  
含む。

